

『續・禹城遊吟』 其の九

唐の王之渙の詩蹟を、山西南部の永濟縣に尋ぬ。黄河を俯瞰する高樓は六階建てのエレベーター付きなり。最上階に等身大の「王之渙詩を詠ずるの像」有り。烟靄にて眺望良からず。纔かに黄河の屈曲の狀を望む。

鶴鵲樓 くわんじやくろう

年來素志此登樓

年來の素志此に樓に登る

樓上懷公凝兩眸

樓上公を懷ひて兩眸を凝らす

千里空濛何所見

千里空濛何の見る所ぞ

黄河日落自悠悠

黄河日落ちて自づから悠悠

〔尤〕

○平成二十二年四月二十八日作

\*素志 平素よりの志。

\*公 王之渙を謂ふ。